

🌀 展開例

目的

- 郷土の画家小磯良平の作品をはじめとする様々な美術作品に親しむ。
- 作品を鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- 美術館を利用するマナーを身につけ、楽しく鑑賞する。

美術館前の取り組み

- 美術館のマナーを学ぶ。なぜ、何のためなのかをみんなで考え、子供が納得しながら身に付くようにし、思いやりの心も育てる。
- 作品の一部分だけを見せ、「どんな作品なのか楽しみにしてね。」と美術館で作品を見る意欲を高める。
- 教室で、掲示用教材《二人の少女》を鑑賞し、小磯良平さんに関心をもてるようにする。

小磯記念美術館での活動

- ギャラリートーク(対話型鑑賞)、アトリエツアー、自由鑑賞、お気に入り作品のスケッチなど
- 「気になる作品は？」等、作品を見る視点を与え、興味や関心をもって見るができるようにする。

美術館後の取り組み

- 日本文教出版教科書3・4年下「ポーズのひみつ」
- 日本文教出版教科書5・6年上アートカードを楽しもう「わたしの美術館」
- 5年生兵庫県立美術館での鑑賞学習
常設展で、彫刻、版画、写真、インスタレーション等の多様な表現にふれる。
例:「美術作品のなぞにちょう戦」作品に対する疑問について推理しながら鑑賞する。



ギャラリートーク



アトリエツアー



お気に入り作品のスケッチ



まとめの会

😊 今回の取り組みについて

- 美術館という非日常的な空間を体験することができた。
- 実物の美術作品やアトリエにふれ、見方や感じ方を深めることができた。
- ギャラリートークを通して、一人では発見できなかったことに気付いたり、自分なりの作品への向き合い方を学んだりすることができた。
- 美術作品に関心をもつきっかけになった。
- 普段の図工学習で自分の考えや思いを表現する大切さにつながった。
- 生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心を持って、生涯にわたり主体的に関わる態度を育成するために、単年で終わらず、次学年でも継続的に取り組むことが大切である。
- 子供が自立的に学び進める学習にも挑戦したい。例えば、「作者についてもっと調べたい。」「友人を何人が集めてギャラリートークをしたい。」「おすすめ作品をパンフレットにして紹介したい。」等。